

芸術身体教育コース 音楽教育系

コース紹介詳細は
Webページへ



取得免許(卒業要件)

小学校一種 + 中学校二種(音楽)
または
中学校一種(音楽) + 小学校二種
学生が近年取得したその他の免許
高等学校一種(音楽) など

「感じる・表現する・創作する喜び」を分かち合う

音楽教育系では、音楽能力の専門性を高め、それを教育現場など社会へ還元するための応用力を養うことを目指しています。声楽、ピアノはもちろん、音楽理論や東洋・西洋音楽史、管弦打楽器・邦楽器・リコーダー実習、指揮法などの音楽専門科目や、初等・中等音楽科教育法など教職関連科目をバランスよく学ぶほか、声楽、器楽、作曲・編曲、音楽学、音楽教育などのいずれかの分野を選択し専門的に学習します。

また、一般の方にもご来場いただいている年4回の「水曜イブニングコンサート」や、県内のホールを会場に盛大に開催される卒業演奏会など、演奏や作品の発表機会が多いことも、音楽教育系の特徴の一つです。きめ細やかな少人数制で、伸びやかに個性を育てます。



● カリキュラム・特徴ある授業や取り組み ●

音楽科の学習指導内容である4つの領域「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を万遍なく履修できるカリキュラムとなっています。音楽科教育や各専門領域について幅広く学び実践する力を身に着け、教科等の専門教養や持続的変態力を音楽の教材研究や授業づくりへと発展させていきます。教職関連科目と音楽専門科目をバランスよく学ぶことで、人や社会への関心を持ち他者と協働する、教職への熱意や教職教養を養います。

●主な授業科目

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
声楽実習Ⅰ・Ⅱ ピアノ演奏実習Ⅰ・Ⅱ 作曲基礎実習Ⅰ・Ⅱ 合唱Ⅰ・Ⅱ ソルフェージュ基礎 管弦楽基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	声楽実習Ⅰ ピアノ実習 音楽理論Ⅰ・Ⅱ 邦楽器実習 音楽史Ⅰ 合奏法	ピアノ アンサンブルⅠ・Ⅱ 音楽史Ⅱ 現代音楽実習 指揮法	歌唱芸術実習 ピアノ特講 声楽特講 音楽学特講 作曲特講 卒業論文

合奏法

2年次前期で履修する「合奏法」の授業では、主に作音楽器を使用して、あらゆる音楽的要素をコントロールすることで音を混ぜ「サウンドさせる」技能や、他の人の演奏から多くのことを知覚・感受し、瞬時に自身の演奏に反映させて、表現のベクトルを揃えていく合奏に欠かせない基礎的なスキルを実践的に学びます。



水曜イブニングコンサート

水曜イブニングコンサートは、日頃の研鑽の成果を披露する演奏会で、年に4回開催されています。一般に公開され、音楽を分かち合う生きた学びの場となっています。自分の力の限りを尽くして物事に取り組み、その成果を聴いて頂くという体験は大きな自信になり、人生を通しての財産となります。



MESSAGE

学生メッセージ

音楽を学び、音楽を考え、音楽を表現する。あとは楽しむ！

音楽の教員になるためには、幅広く音楽を学ぶ必要があります。ピアノの経験は多少あるものの、初めての声楽や作曲などは苦戦の連続です。しかし、同級生や先輩方から多くの刺激を受け、楽しく学んでいます。また、授業以外にもさまざまな発表の機会があり、その経験を通して、自分を高めていくことができます。



教員メッセージ

音楽は、音を使った他者とのコミュニケーション

音楽を創作、演奏するには「自分の頭で考えること」が大切です。楽譜に書かれている音符や記号が何をどのように表現するために書かれているのか、論理的に読み解いていくのです。そしてまた、音楽の源は人間の感情です。音楽を深く学ぶことで、人間を理解し、共感する豊かな心を育むことができると確信しています。



研究紹介①

河野久寿

～研究テーマ～
現代音楽・
電子音楽等の作曲

河野 久寿 Kawano Hisatoshi
長崎市出身。専門は作曲。国立音楽大学音楽学部作曲学科首席卒業(有馬賞受賞)、同大学院修了。国体やねりんピック等の式典音楽や、現代音楽・劇音楽・電子音楽等幅広い音楽を手掛ける。



感動が人を動かす

音楽は古くから培われてきた重要な学問です。人類の歴史と共に音楽が存在します。日本でもはるか昔の縄文時代から素朴な鈴や石の笛に始まり、雅楽・能楽等、西洋音楽の導入と時代と共に進化を遂げています。

音楽はその時代に生きた人々の考えや感情、様々な情報が盛り込まれ、生きる世界や世代を超えて私たちに様々な気づきを与え、時に感動を覚えます。何に感動するのでしょうか？ 良い音楽とは？ どうやって思考を盛り込むのか？ その“どうやって”の部分に技術・理論・哲学が存在し学問となるわけです。

「感動が人を動かす」がモットーです。

以前はこういう音楽を作りたいとか、自己から発信する音楽を強く意識していましたが、やはり音楽は人との関わりが欠かせないもので、これまでの音楽経験をどのように地域社会へ還元するかを考えるようになりました。勿論人を感動させることは簡単なことではありませんが、人との繋がりを意識した、作品を聴いた方のきっかけとなるような音楽を目標としています。

教育の現場においても、子どもたちが感動する瞬間を作ることが大事であると考えています。感動すれば行動が変わり、そしてその後の何かが変わる。そのようなきっかけを作れる先生となれるように共に楽しく学びましょう！



研究紹介②

小島千か

～研究テーマ～
小・中学校音楽科の指導と評価、
音楽と美術の関連

小島 千か Kojima Chika
大学でチェロを大学院で音楽教育を専攻。ジュニア弦楽合奏団などでのチェロ指導者や中学校、高等学校教員を経て現職。中学校では美術科を担当する機会があり美術の教員免許も取得しました。



まずは様々な音楽と関わろう！

みなさんは、小・中学校の音楽科の授業はどんな活動をしたか？ 合唱やリコーダーを吹いた記憶しかない方もいらっしゃるかもしれませんが、音楽の授業は、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の4つの活動から成ります。子どもたちは、これらの活動を通して、音楽の決まり事を学んだり、自分の思いや感性を生かして演奏したり音楽をつくったりします。

「音楽は、個人の思いを表現することであり正解はない」と言われたりもしますが、正解の方向性があるもの、発想力を生かすような正解のないものもあります。大学では、その両方について色々な音楽と関わりながら学びます。そして、音楽の本質や良さを再認識し、音楽を通して人を育てることについて一緒に考えていきましょう！



●音楽を聴きその特徴を
レゴブロックで表したもの



●レゴブロックの作品を基に
ソングメーカーでつくった音楽

創造性を育む音楽教育

音楽と絵画や造形作品には、様々な共通点が存在します。それらを活用して、聴いた音楽の特徴を視覚化したり、視覚的な作品を見てその特徴から音楽をつくったりすることにより、音楽の理解を促し創造性を育むことを目指して研究しています。授業では、レゴブロックやモールなどで音楽の特徴を表したり、様々な楽器や音楽制作ソフトを用いて音楽をつくったりします。



●絵画を基にした音楽づくり



●まねっこによる音楽づくり



●音楽の特徴を
視覚化したものを基にした
音楽づくり

コース紹介

卒業・修了演奏会のGPの様子



作詞：山梨大学芸術身体教育コース 音楽教育系学生
作曲：河野久寿
●第74回 山梨大学卒業・修了演奏会 2025年2月13日(木)
●YCC県民文化ホール 小ホール

～近年の学生受賞情報～

- ・「第26回国際芸術連盟作曲コンクール」第1位受賞(教育学部4年生)
- ・「第10回K作曲コンクール」準優秀賞受賞(教育学部3年生)
- ・音と音楽・創作工房116主催の作曲コンクール「Contemporary Computer Music Concert (CCMC)2025」電子音響音楽作品公募入選(教育学部3年生3名)
- ・「第22回東京国際室内楽作曲コンクール」第2位入賞(修士課程2年生)



動画サイトへ→

